



# 検索エンジンを利用した 主格省略自動判定 システム

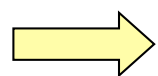
甲南大学学部生 中村慶太

甲南大学 北村達也

東京国際大学 川村よし子

# 背景と目的1

日本語非母語話者への情報伝達において  
それぞれの母国語で伝えるのはコスト大



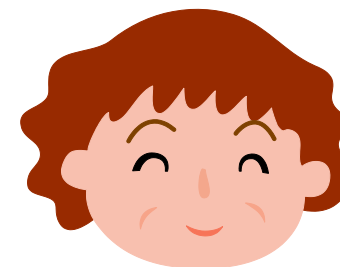
彼らにもわかりやすい日本語で  
伝えることが必要



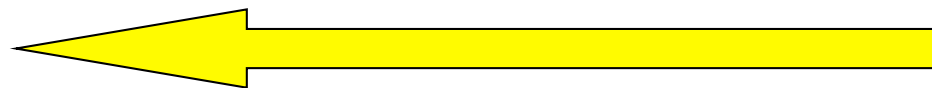
一般の  
日本語母語話者

どこをどう直し  
たらいいのか

知識・経験が  
豊富です



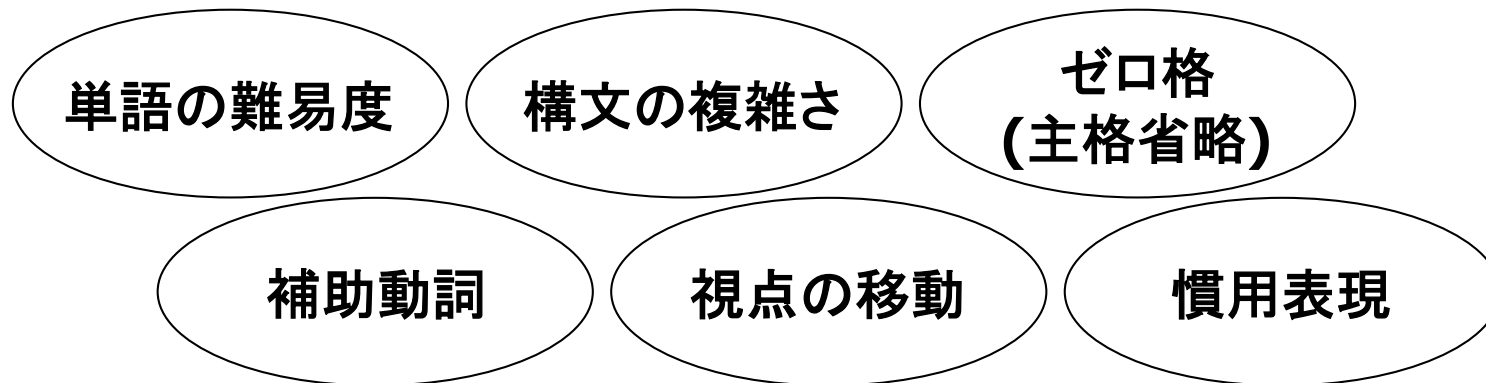
日本語教師



日本語教育が  
培ってきたノウハウ

# 背景と目的2

- 日本語文章の難易度を高める要因, 川村ら(2011)



- **日本語教育が培ってきたノウハウ**を活かし主格省略を検出するシステムを開発
- 検索エンジンを利用した用例検索により**主格の有無を判定**



# 主格省略文の例

- ・うどんが食べたい
- ・マンガを読む
- ・ドアを閉める

動作主である「私」などの主格が省略されている

# 処理の流れ1

## Step 1 入力文を構文解析する

入力文

「私は本を読んだ」

構文解析システム  
KNP ver. 3.01

私は  
本を



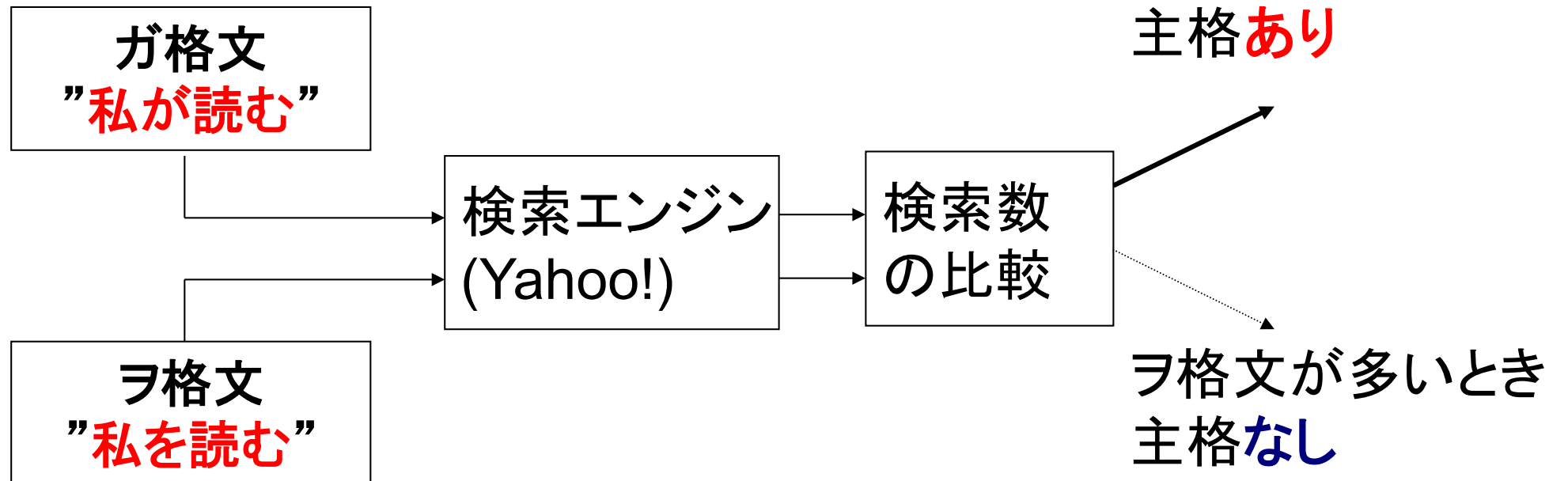
読んだ



# 処理の流れ3

Step 3 : 検索文を作り検索エンジンで検索し、主格の有無を判定する

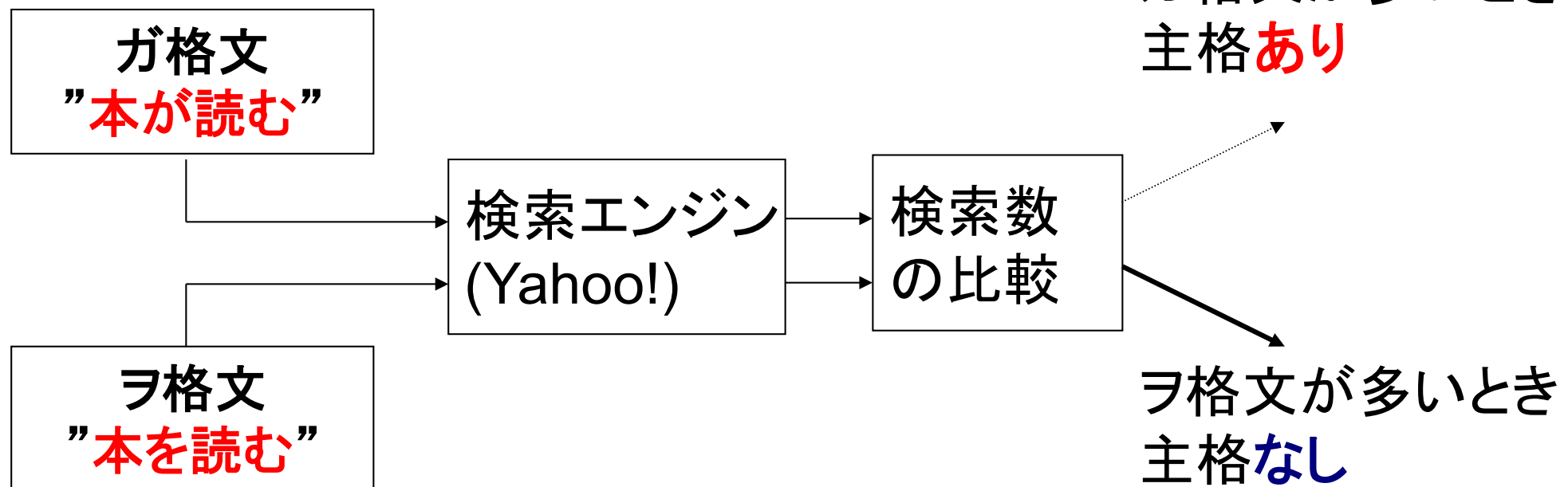
「私は」は「読んだ」の主格になるか調べる



# 処理の流れ3(2)

入力文章「本も読んだ」の場合

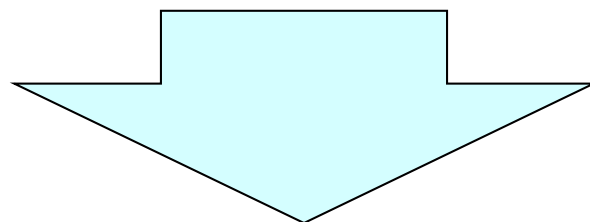
「本も」は「読んだ」の主格になるか調べる





# 再検索

ガ格文とヲ格文の検索数が**少ない**場合や**僅差**の場合



## 再検索

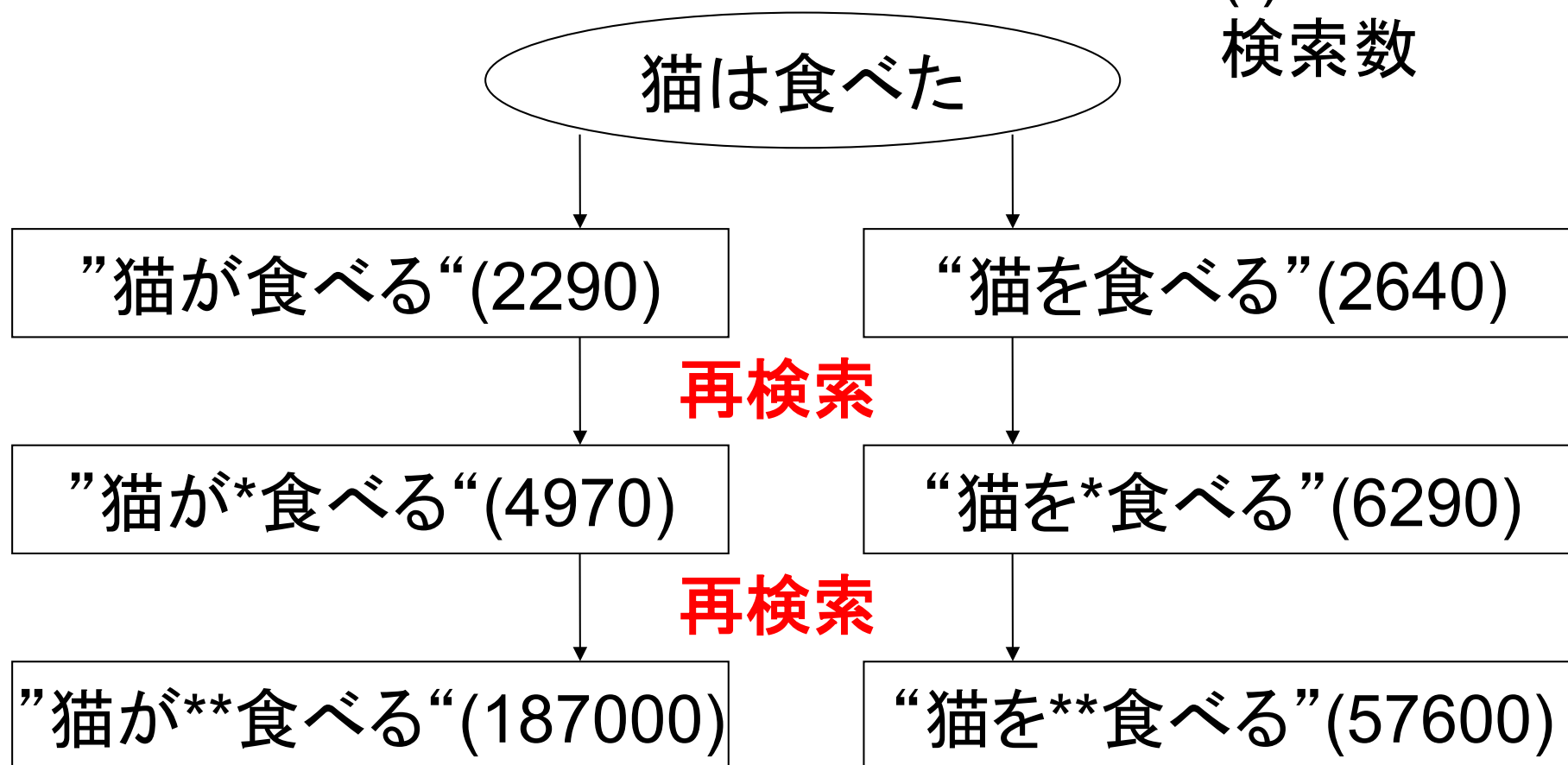
アスタリスク1個が  
形態素1個に対応

ガ格文 ”私が\*読む” , ”私が\*\*読む”

ヲ格文 ”私を\*読む” , ”私を\*\*読む“

# 判定例

( )内の数値は  
検索数



**「猫は」は「食べる」の主格になる**



# まとめ

- 本研究では日本語教育のノウハウを活かして主格省略自動検出システムの開発を行った
- 提案法と人を比較した結果、人が主格省略と判定した文章のうち8割を超える精度が確認できた
- ポスター発表にて提案法が使えるデモを用意しています

本研究の一部は、平成23年度科研費基盤研究(B)(21320095) および平成23年度私立大学等経常費補助金の支援を得て行われた。開発にご協力いただいた、甲南大学知能情報学部3回生小林謙太郎君に感謝します。